

エクマットラ～格差社会に一本の線を描くことを目指して～

バングラデシュは、私に生きる意味と新しい生き方を教えてくれた国。
そのご恩をお返ししていく気持ちで……。

NGO エクマットラ ハンディクラフト部門
代表 渡辺麻恵

きらきらと輝く子どもたちの瞳

エクマットラとの出会い

バングラデシュには路上生活をしているストリートチルドレンが100万人以上いると言われている。都市部の人口急増により働き手として物乞いをする子どもたち、また農村から出てきて路上に住みついてしまった子どもたち、背景や理由はそれぞれだが皆人生の大半を路上で過ごしている。

そうした子どもたちに機会を提供し、路上から大逆転劇を生み出すことを目標に2004年から活動しているのがNGO エクマットラだ。エクはベンガル語で一、マットラは線。格差を超えてこの社会に一本の線(エクマットラ)を描くことを目標に創立メンバーにより名付けられた。

子どもたちやメンバーとの出会い

バングラデシュに来てエクマットラを訪問した時に、まず驚いたのは子どもたちの目の輝きである。皆驚くほど瞳がきらきらと輝いていて、それだけで活動の素晴らしさを感じることができた。



また、エクマットラの活動方針として、寄付のみに頼らずに様々な収益事業をしていることも素晴らしいと思った。多くのNGO団体が取



線路沿いのスラムで子どもたちと対話

入源を寄付のみで運営する中で「自分たちが絶対に子どもたちを食べさせていくんだ」という強い覚悟と信念でビジネスを行っていて、それは団体運営を持続可能にする上でとても健全な思考だと感じた。

そうしたエクマットラのメンバーたちのことを国や人種を越えて純粋に尊敬し、自然と自分もその仲間に入り共に活動したいと思うようになり、2012年の3月創立メンバーの1人である夫との結婚を機に移住を決意したのである。

この国のお母さんたちとの出会い

始めは漠然とした思いでエクマットラの活動を手伝っていた私だったが、自身の妊娠・出産を機に子どもたちへの直接的な支援に加えて、その母親である貧困層の女性にも何か具体的な支援を行いたいという思いがあふれてきた。

路上で生きる術がなく誰の子か分からないまま身ごもってしまった女性、夫の暴力から命からがら逃げてきた女性、急に家を追い出されてしまった女性……、そうした社会の暗闇の中にいる彼女たちの悲しみに触れた時に、今の自分にできることはないかと必死で考えて、始めた